

公表

事業所における自己評価総括表

| | | | |
|----------------|-------------------|----|----------------|
| ○事業所名 | 厚木市児童発達支援センターひよこ園 | | |
| ○保護者評価実施期間 | 2025年 1月 10日 | | ～ 2025年 2月 14日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 81 | (回答者数) 50 |
| ○従業者評価実施期間 | 2025年 2月 3日 | | ～ 2025年 2月 14日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 28 | (回答者数) 18 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 2025年 3月 7日 | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|---|--|--|
| 1 | ・子どもたちが安心して過ごすための取り組み 毎月の避難訓練や感染症や虐待防止、身体拘束適正化などの研修、警察署と連携した防犯研修などの実施。 | ・避難訓練は4月より段階的に進めており、子どもたちの混乱がなるべく少なく、また、訓練実施についての理解が深まるようにしている。 ・年間を通して研修メニューを設定し、毎年異なる視点で研修や訓練が出来るようにしている。 | ・警察署や消防署など他機関と連携することで研修や訓練のバリエーションを広げる。 |
| 2 | ・アセスメントと個別支援計画 子どもたちの発達段階を基盤としたアセスメントシートを作成し、次の課題や目標を明確化している。個別支援計画における支援方法についても、児童発達支援管理責任者を中心にクラス担任全員で検討し作成をしている。 | ・アセスメントスキルの向上には、児童理解が欠かせないが、そのための取り組みとして、年6回のスーパーバイザーによるケース検討会や自己学習の機会としてのブックレポートを実施している。 ・支援計画作成のためのフォーマットや記録ソフトの使い勝手などの検討を随時実施している。 | ・アセスメントや支援スキル向上のための研修機会は多くないと感じている。また、職員の自発的な学習をどのように促すかは今後の課題と感じている。 |
| 3 | ・保護者への丁寧な関わり 利用に際しては、提供するサービスの内容、利用料や注意事項、緊急時の対応などを丁寧に説明している。直接面談の機会は少ないが、連絡帳、電話、音楽療法、懇談会などの場を通して関係性構築を心がけ、疑問点などは迅速に伝えるようにしている。事故や怪我は都度報告を行っている。 | ・些細な事柄でも気にかかったことは伝えて欲しいと常日頃より保護者には伝えている。 ・保護者からの訴えがなくとも、気にかかることはこちらから問いかける。 ・クレームなどを頂いた時には、まずは謝罪と感謝の気持ちを伝える。 | ・職員と保護者との関係構築は概ね良好ではあるが、具体的な支援という点では不足も否めない。様々な背景の家庭があるため、職員の価値観で判断したり、発言することがないように取り組みをすすめたい。 |

| | 事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|--|--|--|
| 1 | ・物理的な建物環境 園庭が設置されていない。また、療育室に収納スペースを設置するだけの部屋の広さが足りず、おもちゃが収納しにくい。活動スペースを確保するためには机やイスを廊下に出さなければならない。また、半日クラスは子ども用トイレがなく、センター内の大人のトイレに行かざるを得ない。 | ・既存建物の部屋を一部改修して設置されたため、指定基準には合致しているものの、収納などのスペースを確保することができなかったため。 | ・園庭は確保困難であるため、代替として屋上の活用、地域内の公園等の利用を行っている。 ・室内スペースの確保も困難であるため、おもちゃなどを収納できるワゴンなどの検討がされている。 |
| 2 | ・地域の子どもたちとの交流 日々クラス在籍児は地域の子どもたちとの直接交流の場が少なくない。 | ・地域の幼稚園や保育園との直接交流の場が持ちにくいことや、ひよこ園でのオープンなイベントをしにくい。プライベートの観点からも保護者が希望されないことが想定される。 | ・直接、幼稚園や保育園との交流は持てないが、地域の公園や図書館などの施設を積極的に利用し、子どもたちの地域生活を積極的にすすめていきたい。 |
| 3 | ・情報発信の少なさ | ・毎月発行している園だよりや予定表、その他、伝達事項は紙ベースおよびメールで伝えているが、ホームページやSNSの活用はしていない。昨今の保護者がほぼスマホから情報を得ていることを考えると、紙ベースでの情報発信に物足りなさがあると考えられる。 | ・SNSを利用した発信は慎重さが求められるため、紙ベースでの発信が主となるが、療育での様子を保護者がわかるように伝えることは今後検討していきたい。 |